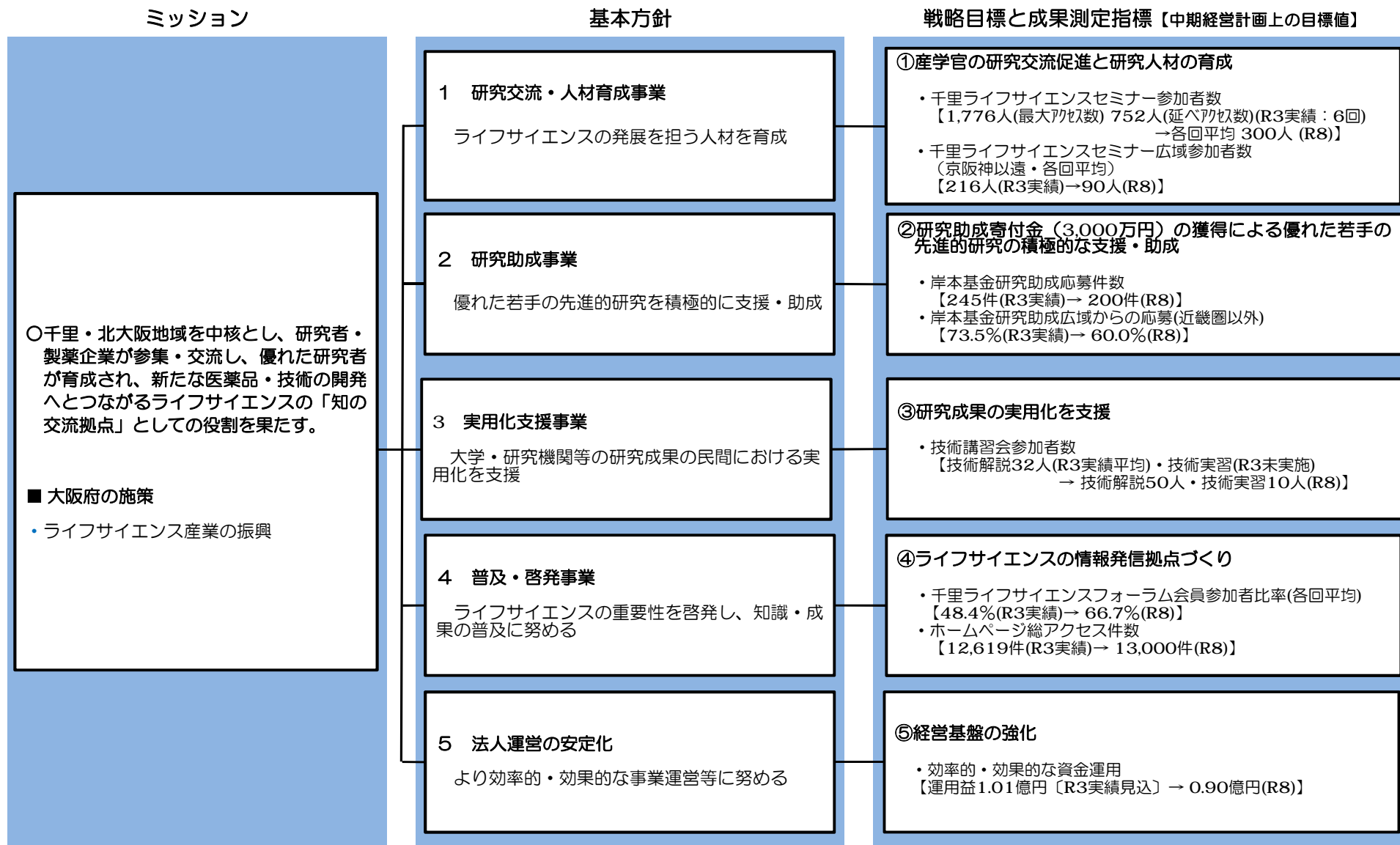


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 【見込値】	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (リアル参加者数+Web最大アクセス数)		人	30	617 ※年2回開催	1,800 ※年6回開催	× 1,776 ※年6回開催	—	—	—	—	—
	千里ライフサイエンスセミナー参加者数(各回平均) (リアル参加者数+Web延べアクセス数)	☆	人	—	(773)	—	(752)	↓ 644	30	300	300	・R4年度はハイブリッド開催を原則とし、コロナ拡大防止のため感染状況の動向を見て、Webのみでの開催も検討する。 ・1講演の参加者数はR3実績中間値の644とする。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○前計画(H29～R3)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査ともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指した千里ライフサイエンスセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の22名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>											
活動方針	<p>○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。</p>											
	<p>○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選定。</p> <p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選定し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。</p> <p>○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p> <p>○R4年度はハイブリッド開催を原則とし、コロナ拡大防止のため感染状況の動向を見て、Webのみでの開催も検討する。</p>											

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 【見込値】	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答(「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」)		%	10	95.2	90.1	96.5	-	-	-	-	-	-
	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者数 (京阪神以遠・各回平均)	☆	人	-	(151)	-	(216)	↓150	10	90	90	中期経営計画の考え方はセミナー参加者300人の30%で各回平均90人と設定。これに基づきR4のセミナーWeb参加申込者(定員500人)の30%で各回平均150人に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 研究助成寄付金(3,000万円)の獲得による優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成	岸本基金研究助成件数		件	5	15	15	15	-	-	-	-	-	-
	岸本基金研究助成応募件数		件	10	181	174	245	↓200	10	200	200	中期経営計画の目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
	岸本基金研究助成 広域からの応募(近畿圏以外) (近畿圏以外応募件数 / 総応募件数)	☆	%	-	(61.9)	-	(73.5)	↓60.0	10	60.0	60.0	中期経営計画の目標値に設定	全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの導入により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数		件	15	6	6	6	-	-	-	-	-	-
	技術講習会参加者数 (目標値・上段「技術解説」下段「技術実習」)	☆	人	-	(46) ※延期しR3に実施 (コロナのため中止)	-	(18) (コロナのため中止)	50 10	10	50 10	50 10	中期経営計画の目標値に設定 ※すべて達成の場合のみ加算	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を検討する。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	10	506	800	810	-	-	-	-	-	-
	千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率(各回平均) (会員参加者数 / 会員数)	☆	%	-	(47.9)	-	(48.4)	66.7	10	66.7	66.7 (会員数150)	中期経営計画の目標値である会員数の2/3(=66.7%)に設定	会員の高齢化とともに新会員の増加が課題となっているが、会員にとって魅力あるフォーラムとするため、会員の意見を聞きながらそのあり方を検討していく。
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	8,962	13,000	×12,619	13,000	10	13,000	13,000	中期経営計画の目標値に設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	0.94	0.90	[1.01]	↓0.90	10	0.90	0.90	中期経営計画の目標値に設定	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	3,720	3,700	2,993	-	-	-	-	-	-

【凡例】
 ・☆はR4年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS 調査の実施概要

○令和 3 年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	1,061	年 6 回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が6回平均96.5%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <p>企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。</p> <p>（今後実施予定の取組）</p> <p>アンケートの満足度だけでなく、自由意見の中から改善点を見つけ出し、引き続き、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。</p>

○令和 4 年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	1,500	年 5 回開催

■ 目標値未達成の要因について

法人名 | 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (リアル参加者数 + Web最大アクセス数)	人	1,800	1,776	▲24

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	第6回開催セミナーの参加者数の減少	第1回から第5回までのセミナー参加者数はいずれも250人を超えていたが、第6回（R4年1月28日開催）だけ199人と低調だった。この理由は、大学院生、学部生の参加者数が少なかったことから、時期的に丸1日の参加が難しかったことなどが考えられる。					第6回だけ低調だった理由は、他の回と比べてテーマが特別難しかったわけではなく、他の要素が特別影響していることもないと思われるが、学生の参加率が低かった点について検討したところ、開催日がまん延防止等重点措置発令直後であり時期的な可能性もあるため、来年度の同時期のセミナーについては講師から学生へのセミナー周知等について依頼する。	
	項目名	千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (リアル参加者数 + Web最大アクセス数)	R3当初想定値	300	実績値	199		
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値			
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値			

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	13,000	12,619	▲381

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	12月のアクセス件数の減少	<p>前年度実績8,962件から大幅に増えたものの13,000件にわずかに届かなかった。 セミナー等のイベント参加者等の利便性を考え、QRコードを設定し目的のページへダイレクトに導くようにしたことが逆に目的ページ以外のページへの立ち寄りを減少させることとなった。 特に12月のアクセス件数が低かった理由は、他の月と比べてイベントが少なく、新適塾とフォーラムだけだったことと年末の休みもあったことが原因と考えられる。</p>						<p>12月はイベント数が少なく、また年末の休みもあることから、HP内の内容や見栄え、見やすさの充実などHP全体の魅力アップを図り、年間平均で目標達成を目指す。</p>
	項目名	ホームページ総アクセス件数（12月）	R3当初想定値	13,000	実績値	6,527	差	
②	セキュリティに対する不安	<p>財団HPは個人情報を入力するフォームは暗号化が図られているが、それ以外のサイトは暗号化が図られていないため、HPにアクセスすると「保護されていない通信」と表示されセキュリティに対する不安がある。</p>						<p>R4年4月に財団HP全体をSSL暗号化（http→https）する。</p>
	項目名	ホームページ総アクセス件数（月平均）	R3当初想定値	-	実績値	-	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (リアル参加者数 + Web最大アクセス数)	人	1,800 ※年6回開催

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (各回平均) (リアル参加者数 + Web延べアクセス数)	人	644

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>セミナーは1日に違う講師により5～6演題が行われるが、申込者 がその全てを視聴しているとは限らない。リアル参加であれば、当 日の出入りはほぼないと考えられるが、Web参加であれば気軽に 出入りが可能であり、またそのカウントも容易である。よって、Web 開催の場合、最大アクセス数に着目するより延べアクセス数に着 目した方がよりそのセミナーの実際の参加者数に近い数を把握す ることが可能と判断し、成果測定指標を変更したい。</p>
----------------------	---

〔2〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー参 加者満足度	%	90.1

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー広 域参加者数 (京阪神以遠・各回平均)	人	150

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>要領上、CS調査の結果をそのまま成果測定指標としないこととさ れていることからこれを廃止し、代わりに中期経営計画で成果目 標とした千里ライフサイエンスセミナーの広域（京阪神以遠）から の参加者数を目標値とする。 中期経営計画の考え方はセミナー参加者300人の30%で各回 平均90人と設定したが、この考え方にに基づきR4の最初のセミナー Web参加申込者（定員500人）の30%で各回平均150人に 設定する。</p>
----------------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔3〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
岸本基金研究助成件数	件	15

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
岸本基金研究助成 広域からの応募 (近畿圏以外)	%	60

成果測定指標の
変更（廃止）を
希望する理由

岸本基金研究助成は寄附金が確保されることが前提であり、目標の3,000万円が確保されれば1件200万円の助成のため、15件の達成の可能性が高まる。よって、助成件数ではなく中期経営計画でめざす全国展開に資する指標として広域からの応募（近畿圏以外）を成果測定指標としたい。

〔4〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
産学連携競争的資金獲得件数	件	6

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
技術講習会参加者数 (目標値；上段「技術解説」 下段「技術実習」)	人	50 10

成果測定指標の
変更（廃止）を
希望する理由

これまで目標である産学連携競争的資金獲得件数は長年（約10年）にわたり成果測定指標としてきたが、今後5年間の中期経営計画の切り替わりに際し、実用化支援の2つのプログラムのうち異分野融合型研究開発推進事業の受託が夏頃にずれ込むことから、実用化支援事業のもう一つの柱である技術講習会の参加者数を成果測定指標としたい。

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔5〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	800

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
千里ライフサイエンスフォーラム会員参加者比率 (各回平均)	%	66.7

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>現在会員の高齢化が進み、新会員の増加が課題となっているが、会員数を増やすため、どういう形のフォーラム開催がいいのか、今後会員の意見を聞きながらそのあり方を検討していく。その際、会員のより積極的な参加によりフォーラムの活性化を図る必要があるため、その指標としてフォーラム参加者数ではなく、会員数の2/3（=66.7%）の参加者比率を成果測定指標としたい。</p>
----------------------	---

〔6〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
総労働時間 (マンパワーの効率化)	時間	3,700

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
-	-	-

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>総労働時間（マンパワーの効率化）は、日々進歩するライフサイエンスの向上発展に寄与するため、職員のマンパワーが必要不可欠であり成果測定指標としてきたが、職員の定着による経験値の増加やスキルアップにより、また事務決裁システムの導入による事務の簡素化や行事開催などで時間外勤務の発生が事前に予測できる場合は勤務時間を変更できるとする規程を整備するなど、時間外勤務を削減する取組みを行い、総労働時間はほぼ正規の勤務時間どおりとなった。よって、目標を達成したため廃止する。</p>
----------------------	--

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (各回平均) (リアル参加者数+Web延べアクセス数)	人	752	644

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>R3年度実績の第2回セミナーはテーマがその時に非常にマッチしたことから、申込数、最大アクセス数、延べ数とも群を抜いて多かったため、特異事例として除外し、それ以外の最大は798人、最小は490人で大幅な開きがあることから、この中間値644人を1回当たりの目標数値とする。</p>
--	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー 広域参加者数 (京阪神以遠・各回平)	人	216	150

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>中期経営計画の考え方はセミナー参加者300人の30%で各回平均90人と設定。R4は原則ハイブリッド開催を計画しているので、リアル参加者が増えるとリアル参加者はほぼ京阪神からの参加のため京阪神からの参加者割合は増えることが想定される。そこでWeb参加者のうち京阪神以遠の参加率を中期経営計画の考え方に基づき30%とし、R4のWeb参加申込者（定員500人）の30%で各回平均150人と設定する。 なお、第2回セミナーは非常に多くの申込みがあり特異事例として除外するとR3の広域参加者数の実績値は190名となる。</p>
--	---

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
岸本基金研究助成応募件数	件	245	200

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>全国的な若手研究者の減少に伴い、応募件数の減少傾向も続いていることから、自然科学分野に関する学部、大学院を有する主要大学の学部長・研究長に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、昨年度は10周年誌の作製、配布など本助成事業を一層の広報を行った。加えて、昨年度から導入した研究助成業務支援システムが功を奏したこともあり減少傾向から大幅な増加に転じた。</p> <p>応募件数の漸減傾向をR3年度は上記理由により回復したが、R4年度は10周年誌のインパクトが低くなり、また200件の応募は若手研究者の減少の中で十分高い目標と考えていることからR4年度の目標は中期経営計画で目標とした200件としたい。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">R1</td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td style="text-align: center;">R2</td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td style="text-align: center;">R3</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td style="text-align: center;">196</td> <td></td> <td style="text-align: center;">181</td> <td></td> <td style="text-align: center;">245 (件)</td> </tr> <tr> <td>減少率</td> <td></td> <td style="text-align: center;">△7.65%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">+35.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減少数</td> <td></td> <td style="text-align: center;">△15件</td> <td></td> <td style="text-align: center;">+64件</td> <td></td> </tr> </table>		R1	⇒	R2	⇒	R3	件数	196		181		245 (件)	減少率		△7.65%		+35.4%		減少数		△15件		+64件	
	R1	⇒	R2	⇒	R3																				
件数	196		181		245 (件)																				
減少率		△7.65%		+35.4%																					
減少数		△15件		+64件																					

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
岸本基金研究助成広域からの応募（近畿圏以外）	%	73.5	60.0

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>岸本基金研究助成の広域からの応募（近畿圏以外）の割合は、R3年度は岸本基金研究助成10周年誌を作成し全国の大学、研究機関等に送付したことから73.5%と高くなった。ライフサイエンス研究に対する全国への支援は岸本基金のさらなる有効活用と財団事業の全国展開に資するものであるが、近畿圏と近畿圏以外のバランスとして60%を適正水準と考えていることから、中期経営計画の成果目標と同値とした。</p> <p>H29 ⇒ H30 ⇒ R1 ⇒ R2 ⇒ R3 61.3 62.4 65.3 61.9 73.5 (%)</p>
--	--

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	〔1.01〕	0.90

マイナス (現状維持) 目標の考え方	当財団は長引く低金利下において、安全かつできるだけ有利な運用を行うため資金運用の約6割を為替連動の仕組債等で運用している。 昨今、円安傾向が続いていることから高金利による運用利息を得られているが、この円安傾向が今後も長期間にわたって継続する保証はないため、中期経営計画の収支計画で見込んだ収支相償を実現するために必要な 0.9 億円を目標としたい。
--------------------------	--

〔6〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
/			

マイナス (現状維持) 目標の考え方	/		
--------------------------	---	--	--